

年間キャンプ指導経験が大学生の自己肯定感に及ぼす影響

高藤 里沙子 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)

指導教員 中野 友博

キーワード：年間キャンプ，大学生，自己肯定感

1, 諸言

近年、若者の自己肯定感があまりにも低いといわれている。このような背景には、他者の役に立っているという感覚が低く、他者の評価で自己肯定感を得ていることが分かった。2014年の子ども・若者白書では、肯定感は学年が上がるにつれて低くなるとあげ、青少年の健全育成にとって、大きな課題の一つと考えている。また佐伯らは、自然体験活動が自己肯定感の向上に繋がると考える。

以上のことから筆者は大学生が自己肯定感を育む場として、年間キャンプのキャンプスタッフ経験に着目した。そこで本研究では、年間キャンプスタッフの経験が大学生の自己肯定感に及ぼす影響を明らかにすることを目的とする。

2, 研究方法

【対象】

F自然学校の年間キャンプ指導スタッフの大学生55名の中から有効な回答を得られた31名を対象とした。

【調査内容】

平石(1990)らが作成した自己肯定意識尺度6因子41項目を使用し、5件法で回答を求めた。対自己領域は自己受容因子、自己現実的態度因子、充実感因子の3因子からなり、対他者領域は自己閉鎖性・人間不信因子、自己表明・対人的積極性因子、被評価意識・対人緊張因子の3因子から測定するものである。

また年間キャンプの内的動向を調べるため、筆者が独自に作成した振り返りシートを中間キャンプ終了時に行った。

【調査時期】

年間キャンプの初回終了時、年間キャンプ10回のうち、中間キャンプ終了時の計2回実施した。振り返りシートは中間キャンプ終了後のみ行った。

3, 結果と考察

1) 自己肯定感の変容

ノンパラメトリック検定を行ったところ、自己肯定感に変化が見られなかった。因子別に見たところ、5因子に有意な差が見られた。結果を表1に示した。

表1 自己肯定感の平均値・標準偏差・検定の結果

(n=31)	M(SD)		Z値
	pre	post	
自己肯定感	141.83(9.89)	137.45(12.15)	-1.235 n.s.
自己受容	17.09(1.74)	17.80(1.76)	-1.702 n.s.
対自己領域	29.48(3.09)	24.67(2.51)	-4.378 ***
自己現実的態度	30.70(3.72)	29.25(4.28)	-2.001 *
充実感	16.00(3.79)	17.35(3.22)	-2.094 *
対他者領域	23.06(3.16)	26.64(2.87)	-4.31 ***
自己閉鎖性・人間不信	25.48(7.70)	21.70(3.26)	-3.223 **
被評価意識・対人緊張			

***p<.001, **p<.01, *p<.05

対自己領域の因子は低下したが、対他者領域に向上が見られた。理由として対自己領域は自己実現的因子に有意な低下がみられ、将来教育者を目指している大学生に現実の厳しさや、キャンプ指導以外の私生活が低下した要因と考えられる。

対他者領域では、自己表明・対人的積極性因子、被評価意識・対人緊張因子に変化がみられ、毎回同じ子供たちとキャンプすることで、緊張がほぐれ、環境に慣れ、子供たちへ成長して欲しいという気持ちが芽生え有意な向上したと考える。

2) 対象年齢別、自己肯定感の変容

対象の年齢が違う4コース別に、ノンパラメトリック検定を行ったところ、すべてに有意な向上が見られなかった。しかし因子別にみるとすべてのコースの自己表明・対人的積極性因子に向上が見られた。

4, まとめ

年間キャンプ指導経験を通して、自己肯定感の向上に繋がらなかった。しかし対他者領域での因子別にみると向上が見られたことから、他者に対しての意識に変化が見られたと考える。自己肯定感が向上しなかった要因としては調査期間が挙げられ、キャンプ指導以外での私生活に要因があると考えられる。

引用・参考文献

- 1) 平石 賢二(1990) 青年期における自己意識の発達に関する研究 (I), 名古屋大学教育学部紀要教育心理学科, 第37巻, pp. 217-234
- 2) 内閣府(2014) H26年版子ども・若者白書 http://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h26honpen/tokushu_02.html, アクセス 2016.11.11
- 3) 佐伯怜香, 新名康平, 服部恭子, 三浦佳世(2006) 児童の感動体験が自己効力感・自己肯定感に及ぼす影響, 九州大学心理研究第7巻, pp. 181-192